

平成27年度 静岡県地域外交戦略会議に当たって

平成27年4月20日

本日は知事をはじめ関係者ご列席の下、本県の地域外交戦略を議論する貴重な機会ではございますが、明日、ミラノ万博日本館のテストランがあり、政府代表とともに現地へジェトロの要請で出張しているため、出席が叶わず誠に失礼いたします。先日、企画広報部長より、この場で議論される内容についてご説明いただきましたので、これに基づき気付きの点を2つ申し上げ、僅少なながら小職への負託に応えたく存じます。

第一に、現場との密接なコミュニケーションです。いわゆるICT技術の発達により、さまざまな情報を手軽に収集できるようになりましたが、だからこそ、フェイス・トゥー・フェイスでしかやりとりできない情報の価値はその貴重さを増しております。本年度より、関係各位のご尽力を得て、海外駐在員がインターネットを介してこの場に参加することになりました。こうした取り組みをさらに発展させ、例えば、海外各地でどのようなことが起こっているのかを本県に、あるいは、本県がどのような狙いを定めているのかを各地域に、メール等でのコミュニケーションに加え、各般の機会を活用して、直接話し合っていくことが重要であると考えております。

第二に、好調の中でこそふりかえり足元を固めることです。富士山静岡空港へのインバウンドの増加に代表されるように、昨年度、本県と海外各地との交流は一層深まったものと認識しております。その要因としては、県庁の諸施策が功を奏した部分が大きいと存じますが、他方、円安という追い風に助けられた部分も否定できません。外部環境には、追い風もあれば逆風もあります。追い風に乗っている今だからこそ、逆風の可能性から目を背けることなく、外部環境が悪化しても確かな交流が持続するよう、世界レベルの本県の魅力を更に掘り起こし発信する、次の一手に着手する必要があると考えております。

末筆ながら、本日も議論いただいた戦略を基とする本年度の地域外交の発展に向け、東郷補佐官にご指導を賜りながら、小職も微力を尽くしていく所存ですので、県庁の皆様におかれましては、引き続きよろしくお願い申し上げます。

通商担当補佐官 秋岡榮子